

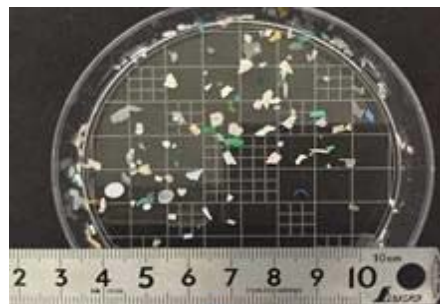
海洋プラスチックごみ防止 6R県民運動

くらし・環境部環境局

海洋プラスチックによる海洋汚染の状況



←海岸に漂着したごみ



←ごみの中の細かなプラスチック片



←ネットが体に絡んだウミガメ

出典：環境省資料
(プラスチックを取り巻く国内外の状況)

プラスチックごみの海洋流出 年間800万トン(≒ジャンボジェット機5万機)
(2050年には) 魚の重量 < 海のプラスチックごみの重量

海洋プラスチックによる海洋汚染（日本の対応）

○喫緊の対応を要する地球規模の課題

- ・政府は「プラスチック資源循環戦略」を策定予定。
- ・2019年6月に大阪で開催予定のG20サミットでも、主要な議題として取り上げられる予定。

○日本はプラスチックごみを輸出してきた。

2017年	中国が廃プラスチックの輸入を禁止
2019年 (5月10日)	有害なごみの国際的な輸入を規制する「バーゼル条約」の規制対象に、汚れたプラスチックごみが追加

日本からのプラスチックごみの排出抑制、国内での適切な処理が必要

3

海洋プラスチックによる海洋汚染（本県の状況）

県内の海岸域におけるプラスチックごみ (平成30年度 県環境衛生科学研究所調査)

○調査結果

調査日	調査方法・範囲 (焼津市浜当日海岸)	総重量	うちペットボトル	その他のごみ
7月8日	自治会による海岸清掃での回収ごみを分別(幅約700m)	32.7kg	6.84kg (21%)、 223個	発泡スチロール(11%)、 サンダル等靴類(7%)
8月22日	海岸の一定範囲でプラスチックごみを回収(50m×15m)	15.2kg	1.0kg (7%)、 21個	廃タイヤ、ダクト配管が 全体重量の61%。
9月18日	同上	8.6kg	1.0kg (12%)、 28個	サンダル等靴類(15%)。

種類別ではペットボトルが最も多いが、発泡スチロールやサンダルなど、私たち県民の生活の中から排出されたとと思われるプラスチックごみが多数見られた。

県の取組

◆県の取組

プラスチックごみ流出防止のためにできることは？



国の「プラスチック資源循環戦略」に先駆け、
できることから取組を始める



「海洋プラスチックごみ防止県民運動推進本部」を
立ち上げ、県民運動を展開

【重点取組】

プラスチックごみの
発生抑制

+

プラスチックごみの
流出防止

5

6R県民運動の推進

従来の3R+新しい「3R」 → 「6R」

Reduce (リデュース・発生抑制)

Reuse (リユース・再使用)

Recycle (リサイクル・再生利用)

Refuse (リフューズ・ことわあ〜る)

○レジ袋や使い捨てスプーンの提供を断るなど

Return (リターン・回収)

○外出時のごみの持ち帰り、店頭回収の利用など

Recover (リカバー・回復)

○海岸・河川清掃活動への参加など

6

6R県民運動の展開

県民運動推進本部

本部長 静岡県知事

本部員 14人(有識者、関係団体等の代表者)
役割:基本方針の決定、県民運動の推進

企画・実施

県民運動推進大会

- 目的 県民運動の意識共有と実践の推進
日時 令和元年5月30日(木)(ごみゼロの日)
場所 県庁西館4階会議室
参加者 県民運動に賛同する企業・団体、行政担当者(約100人)
次第
- (1) 講演会(午後1時30分～午後3時)
「海ごみ問題の概要と課題～プラスチックごみ問題を中心に～」
 - (2) 県民運動推進大会(午後3時15分～午後3時45分)
推進本部長(知事)挨拶
県民運動基本方針の説明
大会宣言

7

6R県民運動の展開

実施期間

令和元年5月30日～令和2年3月31日

期間中の主なイベント

- 6月 環境月間
海ごみゼロウィーク(5/30～6/8)
- 7月 海の日(7/15)
- 10月 3R推進月間
賛同者による実践事例等の発表会
- 12月 不法投棄撲滅月間

6R県民運動の実践、運動の拡大

静岡の取組を世界へ！！

8